



2026年5月15日

各位

会社名 株式会社トリドールホールディングス  
 (コード番号 3397 東証プライム市場)  
 代表者名 代表取締役社長 栗田 貴也  
 問合せ先 取締役 兼 CFO  
 兼 ファイナンス本部長 山口 聡  
 電話番号 03-4221-8900

## 通期連結業績予想と実績値との差異および減損損失に関するお知らせ

2025年5月15日に公表した2026年3月期通期連結業績予想と本日公表の実績値との差異が生じたこと、および減損損失を計上することとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 通期連結業績予想と実績値との差異

(1) 2026年3月期通期連結業績予想と実績値との差異(2025年4月1日～2026年3月31日)

	売上収益	事業利益 (注1)	営業利益 (注2)	税引前 利益	当期利益	親会社の 所有者に 帰属する 当期利益	基本的 1株当たり 当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	282,000	19,600	14,600	12,100	6,100	5,500	58.23
実績 (B)	278,715	21,460	10,578	8,089	2,748	2,311	21.65
増減額 (B-A)	△3,285	+1,860	△4,022	△4,011	△3,352	△3,189	
増減率 (%)	△1.2	+9.5	△27.5	△33.2	△55.0	△58.0	
(ご参考) 前期実績	268,228	18,205	8,674	5,332	2,188	1,874	16.95

(注1) 事業利益: 売上収益－売上原価－販売費及び一般管理費

(注2) 営業利益: 事業利益－減損損失＋その他の営業収益－その他の営業費用

#### (2) 通期連結業績予想と実績値との差異の理由

2026年3月期通期の業績については、売上収益は前回発表予想の2,820億円から1.2%減少し、2,787億15百万円、事業利益は196億円から9.5%増加の214億60百万円であり、いずれも過去最高となりました。丸亀製麺セグメントの事業利益は、原材料費等の増加分を増収で吸収し、ほぼ計画並みとなり、過去最高となりました。一方、国内その他セグメントの事業利益は、原材料費や人件費の増加を増収で吸収しきれず、計画を下回りました。海外事業セグメントの事業利益は、英国事業の回復に時間を要しているものの、好調なアジア事業の貢献のほか、海外事業における選択と集中による事業再編の推進等により計画を大幅に上回り、過去最高となりました。

また、海外事業におけるポートフォリオの見直しによる事業の選択と集中を推進した結果、特に英国市況の影響を受け、不採算店舗やのれんの減損損失等により、114億8百万円の減損損失を計上し、営業利益は前回発表予想の146億円から27.5%減少の105億78百万円となりました。

さらに、グループ内外貨建て債権について、当期末の為替レートが円安に推移したことで為替差益が発生したほか、海外の持分法適用会社の株式評価損を計上しました。一方で、国内事業の収益増加に加え、減損損失の一部が税務上損金算入されないことにより、課税所得が増加し、法人所得税費用が増加しました。

その結果、親会社の所有者に帰属する当期利益は前回発表予想の55億円から58.0%減の23億11百万円となりました。

(参考)2026年3月期通期セグメント別業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(単位：百万円)

売上収益	2026年3月期 実績	2026年3月期 計画	計画比	
			増減額	増減率
丸亀製麺	137,193	137,000	+193	+0.1%
国内その他	39,626	39,000	+626	+1.6%
海外事業	101,895	106,000	△4,105	△3.9%
連結	278,715	282,000	△3,285	△1.2%

(単位：百万円)

事業利益	2026年3月期 実績	2026年3月期 計画	計画比	
			増減額	増減率
丸亀製麺	21,955	22,100	△145	△0.7%
国内その他	4,152	4,900	△748	△15.3%
海外事業	5,285	3,600	+1,685	+46.8%
調整額(注3)	△9,933	△11,000	+1,067	—
連結	21,460	19,600	+1,860	+9.5%

(注3)調整額は各報告セグメントに配分していない全社費用です。

## 2. 減損損失について

2023年7月に子会社化した Fulham Shore 社の拠点である英国は、近年、エネルギー・食料等の価格上昇を背景としたインフレが高水準で推移し、最低賃金の上昇による人件費の増加もあり、外食産業を取り巻く経済環境は想定以上に厳しい状況が継続しております。当社としても収益改善等のための各種施策に取り組んでまいりましたが、外部環境の急激な変化への対応に一定の時間を要しており、収益性の回復が当初の想定より遅れておりました。

このような足元の英国事業環境の変化を受け、企業価値の再評価および将来の収益性を慎重に精査した結果、当エリアの不採算店舗資産やのれんに関して減損損失を計上することとなりました。

また、その他のエリアやブランドにおいても、各店舗を独立したキャッシュ・フローを生み出す最小単位と捉え、減損会計を適用して事業用固定資産の投資の回収可能性を継続的に判断しております。これらの取り組みは、収益性の低い資産の早期特定と、ポートフォリオの最適化を通じて、成長領域へのリソース再配分を促進し、中長期的な企業価値向上につなげる戦略的意義も有しております。

2026年3月期通期連結減損損失の主な内訳は以下のとおりです。

(単位：百万円)

セグメント	主なエリア	科目	減損損失額
丸亀製麺	日本	有形固定資産、使用権資産	358
国内その他	日本	有形固定資産、使用権資産	399
海外事業			10,652
	英国・アジア	有形固定資産、使用権資産	2,609
	英国	無形資産およびのれん	8,042
合計			11,408

詳細につきましては、当社ホームページ (<https://www.toridoll.com/ir/>) 掲載の「2026年3月期決算説明資料」を参照ください。

以上